創刊に寄せて

関西大学が120周年を迎える平成18年４月に設置された大学院会計研究科（いわゆる会計大学院，アカウンティング・スクール）は，このほど学術誌『現代社会と会計』を創刊する運びとなった。本研究科には，高度専門職教育に責任を有する専任教員が９名，特別任用教員が３名いる。我々教育スタッフは自らの研究や実務の経験を教育に活かし，また，兼担教員・兼任教員が担当する科目を含むすべての開講科目の教育を改善できるよう日夜努力している。本誌は我々教育スタッフの研究・実務・教育の最新の成果を掲載し，世に広く知らしめて健全なる批判を仰ぎ，もって本研究科の教育水準を高めることを目的としている。なお，我々は欧文紀要も同時に発刊する。

専門職大学院が機関誌を発刊することの意義は，独立大学院として当然求められるということのほか，高い研究水準を保つことによってはじめて高い教育水準が維持できることに求められるからである。専門職大学院では学生が会計・監査の専門家として実務問題に対応できるための必要な能力を身につけられるよう周到にカリキュラムが組まれている。我々は学生に対して，実務上直面するに相違ない問題の本質を見抜き，それに自力で対応できるようにと教授内容を工夫するのである。そうした工夫は，教育スタッフ一人ひとりが取り組む分野別の専門研究と教授法改善を念頭に置いた教育研究の双方から産みだされるものである。我々は最高水準の教育を提供し続けるために，専門研究や教育研究に不断の努力を傾けるのである。

創刊号の発刊にあたり，我々専任教員の過去５年間の業績を巻末に記載した。これは教員の研究活動の公開の一環として行うものであり，次年度以降も直近１年分を追加する形式で継続的に公開していく。こうした研究業績の公開によって，学生に対しても社会に対しても，我々の研究力ひいては教育力を知っていただきたいと考えている。

会計大学院の開校の年度にいち早く学術誌『現代社会と会計』を発刊できることは喜ばしいことである。本誌と同時発刊となる欧文紀要とともに末永く愛読される雑誌として成長することを切に願っている。なお，本年は，専任教員９名全員で執筆した『会計教育方法論』（関西大学出版部）も同時刊行となった。合わせて読まれることを期待している。

平成19年３月

会計研究科長

柴　　健　次